

## FIXING TAPE FOR FLOOR CURING SHEET

**Publication number:** JP9188854

**Publication date:** 1997-07-22

**Inventor:** IKEDA KOICHI; KAWANISHI MICHIO; ONISHI HIROHITO

**Applicant:** NITTO DENKO CORP

**Classification:**

- international: **B32B27/32; C09J7/02; C09J133/00; B32B27/32; C09J7/02; C09J133/00;** (IPC1-7): C09J7/02; B32B27/32; C09J7/02

- European:

**Application number:** JP19960019412 19960109

**Priority number(s):** JP19960019412 19960109

[Report a data error here](#)

### Abstract of **JP9188854**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a fixing tape for floor curing sheet which has good workability in adhesion and release, is scarcely peeled off from the floor even when it is applied thereto for a long term, can be peeled off efficiently from the floor without leaving any adhesive or without being broken and prevents the floor from being discolored by forming light-shielding layer on one surface of a polypropylene base and forming a pressure-sensitive acrylic adhesive to the other surface.

**SOLUTION:** As shown in Fig. this tape consists of a light-shielding layer 1, a polypropylene base 2 and a pressure-sensitive acrylic adhesive layer 3. A release coat layer 11 is formed when the tape is in the form of e.g. a winding. The polypropylene base is uniaxially stretched in the direction of the length of the tape and has a thickness of 300 $\mu$ m or below. The light shielding layer is formed in the form of a polymer layer containing a light-absorbing substance such as a pigment (e.g., silica) or a light-reflecting substance. The ultraviolet transmittance of the polypropylene base having the light-shielding layer should be below 50% at a wavelength of 300-400nm. The pressure-sensitive acrylic layer has desirably a gel fraction of 30-75% and has a thickness of 10 $\mu$ m or below.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-188854

(43)公開日 平成9年(1997)7月22日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 0 9 J 7/02	J J W		C 0 9 J 7/02	J J W
	J H U			J H U
	J J A			J J A
	J L F			J L F
B 3 2 B 27/32			B 3 2 B 27/32	Z
審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 6 頁)				

(21)出願番号 特願平8-19412

(22)出願日 平成8年(1996)1月9日

(71)出願人 000003964

日東電工株式会社

大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号

(72)発明者 池田 功一

大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号 日東  
電工株式会社内

(72)発明者 川西 道朗

大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号 日東  
電工株式会社内

(72)発明者 大西 啓仁

大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号 日東  
電工株式会社内

(74)代理人 弁理士 藤本 勉

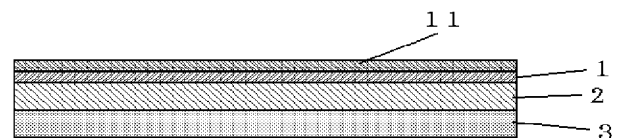
(54)【発明の名称】 床養生シート固定テープ

(57)【要約】

【課題】 ポリプロピレン基材の接着時や剥離時の良好な作業性を維持しつつ、床養生シートの長期間の接着固定を続けても、浮き等の剥がれを生じにくく、糊残りや破断なく連続的に効率よく剥離できて、床材に変色を生じさせない床養生シート固定テープの開発。

【解決手段】 ポリプロピレン基材(2)の片面に光線遮蔽層(1)を有し、他面にアクリル系粘着層(3)を有する床養生シート固定テープ。

【効果】 床養生シートの耐候性に優れる固定処理を作業性よく行えて、窓際等の日当たりのよいところで長期間の接着固定を続けても糊残りや破断なく剥離できる。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 ポリプロピレン基材の片面に光線遮蔽層を有し、他面にアクリル系粘着層を有することを特徴とする床養生シート固定テープ。

【請求項2】 請求項1において、光線遮蔽層を有するポリプロピレン基材における波長300～400nmの紫外線の透過率が50%未満である床養生シート固定テープ。

【請求項3】 請求項1又は2において、ポリプロピレン基材がテープの幅方向に一軸延伸されたものであり、アクリル系粘着層がゲル分率30～75重量%のものである床養生シート固定テープ。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の技術分野】本発明は、床材と床養生シートに対する接着性が良好で耐候性に優れた床養生シート固定テープに関する。

**【0002】**

【発明の背景】建築物の建築過程で床材を敷設後に内装工事等をする際には、傷付き防止等を目的に床材が床養生シートでカバーされ、その床養生シートは動かないように固定テープを介して床面に固定される。床養生シートは、床材保護の目的が終了すると固定テープと共に剥離除去されるが、その際に固定テープには破断なく連続的に容易に剥離でき、剥離後に糊残りや床材の変色等がないことの性能が要求される。

【0003】従来、前記の床養生シート固定テープとしては、ポリプロピレン基材にゴム系粘着層を設けたものが知られていた。ポリプロピレン基材は、ポリエチレン基材や紙基材のように接着時に基材の伸びが残留して浮き等の剥がれの発生や、剥離時の破断等を生じることがなく、強度や二次加工性等が良好で作業性に優れた利点を有している。特にテープの幅方向に延伸されてなる横一軸延伸物では、手作業により紙基材の如くに容易に切断でき、かつその場合に切断面が紙基材のように不揃いとなることなく良好な切断面が形成されるなどの利点も有している。

【0004】しかしながら、通例2～6ヵ月間、床養生シートを固定した後その固定テープを剥がした際に床面に粘着層が糊残りしたり、床材が固定テープを介して変色している問題点があった。そのため基材や粘着層に顔料を添加したり、基材と粘着層の間に充填剤含有層を介在させたりしたものも提案されている。しかし、長期間の固定処理ではやはり糊残りや床材の変色が発生し、基材の劣化で剥離の際に破断しやすくなって剥離作業の能率を低下させる問題を発生し、満足できる解決策となっていない問題点があった。

**【0005】**

【発明の技術的課題】本発明は、ポリプロピレン基材の接着時や剥離時の良好な作業性を維持しつつ、床養生シ

ートの長期間の接着固定を続けても、浮き等の剥がれを生じにくく、糊残りや破断なく連続的に効率よく剥離できて、床材に変色を生じさせない床養生シート固定テープの開発を課題とする。

**【0006】**

【課題の解決手段】本発明は、ポリプロピレン基材の片面に光線遮蔽層を有し、他面にアクリル系粘着層を有することを特徴とする床養生シート固定テープを提供するものである。

**【0007】**

【発明の効果】上記構成の外表面に光線遮蔽層を設け、粘着層をアクリル系粘着剤にて形成した固定テープにより、床養生シートの耐候性に優れた固定処理を作業性よく行うことができ、窓際等の日当たりのよいところで長期間の接着固定を続けても、浮き等の剥がれを生じにくく、しかも糊残りや破断なく連続的に効率よく剥離できて、床材の変色を防止することができる。

**【0008】**

【発明の実施形態】本発明の固定テープは、ポリプロピレン基材の片面に光線遮蔽層を有し、他面にアクリル系粘着層を有するものからなり、床養生シートをその周縁部等を介し床面に接着して固定するためのものである。その例を図1に示した。1が光線遮蔽層、2がポリプロピレン基材、3がアクリル系粘着層である。なお11は、巻回体等とする場合に必要に応じて付設される剥離コート層である。

【0009】ポリプロピレン基材については特に限定はなく、従来に準じた適宜なものを用いる。手作業による切断性などの点よりは、一軸延伸物をその延伸方向がテープの幅方向となるように用いたものが好ましい。ポリプロピレン基材には光線透過率の調節などを目的に適宜な添加剤を配合することができる。

【0010】またポリプロピレン基材には、光線遮蔽層やアクリル系粘着層の密着力の向上等を目的に、コロナ処理やプラズマ処理等の物理的処理、下塗り剤等の化学的処理などの適宜な表面処理を施すことができる。基材の厚さは、強度等に応じて適宜に決定しうるが、一般にはテープの薄型化等の点より300μm以下、就中40～120μm、特に60～100μmとされる。

【0011】ポリプロピレン基材の片面に設ける光線遮蔽層は、基材や粘着層の紫外線等の光線による劣化の抑制を目的とする。光線遮蔽層を外表面に設ける構造とすることにより、良好な耐候性を長期間持続する固定テープとすることができる。光線遮蔽層は、顔料等の光線吸収性物質、あるいは光線反射性物質を含有するポリマー層などとして形成することができる。

【0012】前記の光線吸収性物質や光線反射性物質としては、顔料や紫外線吸収剤、その他の添加剤などの適宜なものを用いる。ちなみに顔料の例としては、シリカやアルミナ、チタニアやジルコニア、亜鉛華や酸化

錫、酸化インジウムや酸化カルシウム、酸化カドミウムや酸化アンチモン、マイカや炭酸カルシウム、カーボンブラックやモリブデンレッド、チタンイエローやコバルトブルーの如き無機顔料、フタロシアニンブルーやフタロシアニングリーンの如きフタロシアニン系顔料、シンカシアレッドの如きキナクリドン系顔料、レーキレッドやベンジジンオレンジ、ベンジジンイエローやハンザイエロー、グリンゴールドの如きアゾ系顔料、インダスレンスカーレットやインダスレンオレンジ、インダスレンブルーやインダスレンヴァイオレット、アンスラアミノピリミジンイエローなどのスレン系顔料などがあげられる。

【0013】紫外線吸収剤の例としては、サリチル酸エステル系化合物やベンゾフェノール系化合物、ベンゾトリアゾール系化合物やシアノアクリレート系化合物、ニッケル錯塩系化合物などがあげられる。

【0014】ポリマーとしては、塩化ビニル・酢酸ビニル共重合体やポリエステル、ポリエーテルサルホンやポリカーボネート、ポリスチレンやポリアリレート、ポリアミドやポリイミド、ポリオレフィンやアクリル系樹脂、アセテート系樹脂や炭化水素系樹脂、アセタール系樹脂やブチラール系樹脂、ウレタン系樹脂やセルロース系樹脂、繊維素系樹脂や塩素化ポリエチレン、ポリブテンやポリメチルペンテン、エチレン・酢酸ビニル共重合体やエチレン・(メタ)アクリレート共重合体、エチレン・メチル(メタ)アクリレート共重合体やエチレン・エチル(メタ)アクリレート共重合体、エチレン・プロピレン共重合体やポリ塩化ビニルの如き熱可塑性樹脂、アクリル系やウレタン系、アクリルウレタン系やエポキシ系、シリコン系等の熱や紫外線等による硬化型樹脂などがあげられる。

【0015】光線遮蔽層の形成は、例えば1種又は2種以上の光線吸収性物質又は/及び光線反射性物質とポリマーを、溶媒を用いてボールミル等で混合してペースト状等の流動物としたものを、グラビアコート等による適宜な方式でポリプロピレン基材の片面に塗工する方式などにより行いうる。その形成に際しては、可塑剤や軟化剤、酸化防止剤や分散剤、滑剤やクレーの如き充填剤等の適宜な配合剤を添加することもできる。

【0016】ちなみに可塑剤や軟化剤の例としては、フタル酸ジメチルやフタル酸ジエチル、フタル酸ジブチルやフタル酸ジヘプチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシルやフタル酸ジイソノニル、フタル酸ジイソデシルやフタル酸ジブチルベンジル、フタル酸ジオクチルやブチルフタリルブチルグリコレートの如きフタル酸系化合物、トリメリット酸トリブチルやトリメリット酸トリ-2-エチルヘキシル、トリメリット酸トリn-オクチルやトリメリット酸トリイソデシルの如きトリメリット酸系化合物、フマル酸ジブチルやマレイン酸ジブチル、マレイン酸ジ-2-エチルヘキシルやアジピン酸ジイソブチル、アジピン酸ジイソノニルやアジピン酸ジイソデシル、アジピン酸ジブチル、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシルの如き脂肪族二塩基酸エステル系化合物、リン酸トリエチルやリン酸トリフェニル、リン酸トリクレジルやリン酸トリキシレニル、リン酸クレジルフェニルの如きリン酸エステル系化合物、ジイソデシル-4, 5-エポキシテトラヒドロフタレートの如きエポキシ系化合物、塩素化パラフィンやポリブテンの如きパラフィン系ワックス類、天然系ワックス類、エステル系ワックス類、高級アルコール系ワックス類、高級アミド系ワックス類、ポリイソブチレンやオレイン酸ブチルなどがあげられる。

【0017】また酸化防止剤としては、例えば2, 6-ジ-*n*-ブチル-*p*-クレゾールや*n*-アクタデシル- $\beta$ -(4-ヒドロキシ-3, 5-ジ-*n*-ブチルフェニル)プロピオネート、アルキルフェノールの如き置換モノフェノール系化合物、2, 2-メチレンビス(4-メチル-6-*n*-ブチルフェノール)や4, 4-ブチリデンビス(3-メチル-6-*n*-ブチルフェノール)、4, 4-*i*-プロピリデンビスフェノールの如きアルキリデンビスフェノール系化合物、1, 3, 5-トリメチル-2, 4, 6-トリス(3, 5-ジ-*n*-ブチル-4-ヒドロキシベンジル)ベンゼンやテトラキス〔3-(4-ヒドロキシ-3, 5-ジ-*n*-ブチルフェニル)プロピオニルオキシメチル〕メタン、トリス(2-メチルヒドロキシ-5-*n*-ブチルフェニル)ブタンの如きポリフェノール系化合物、4, 4-チオビス(3-メチル-6-*n*-ブチルフェノール)や4, 4-チオビス(6-*n*-ブチル-*o*-クレゾール)の如きチオビスフェノール系化合物、ジラウリルチオジプロピオネートやジステアリルチオジプロピオネートの如きチオプロピオン酸エステル系化合物などがあげられる。

【0018】一方、滑剤としては、例えばステアリン酸の如き脂肪酸、ステアリン酸アミドやパルミチン酸アミド、メチレンビスステアロアミドやエチレンビスステアロアミドの如き脂肪酸アミドなどがあげられる。

【0019】光線遮蔽層においてバインダとして機能するポリマー以外の成分の含有量は、光線遮蔽率などに応じて適宜に決定しうるが、一般には5~95重量%、就中15~90重量%、特に30~80重量%とされる。本発明においては、光線遮蔽層を有するポリプロピレン基材の状態に基づいて、波長300~400nmの紫外線の透過率が50%未満、就中40%以下、特に30%以下としたものが基材や粘着層の劣化防止等の点より好ましい。光線遮蔽層の厚さは、光線遮蔽率などに応じて適宜に決定しうるが、一般には薄型化等の点より、10 $\mu$ m以下、就中1~5 $\mu$ m、特に2~3 $\mu$ mとされる。

【0020】アクリル系粘着層の形成には、適宜なアクリル系粘着剤を用いることができ、特に限定はない。就中、耐候性などの点よりアクリル系ポリマーを主成分に

用いたアクリル系粘着剤が好ましく用いうる。ちなみにそのアクリル系ポリマーとしては、例えばメチル基やエチル基、プルビル基やイソプルビル基、*n*-ブチル基や*tert*-ブチル基、イソブチル基やアミル基、イソアミル基やヘキシル基、ヘプチル基やシクロヘキシル基、2-エチルヘキシル基やオクチル基、イソオクチル基やノニル基、イソノニル基やデシル基、イソデシル基やウンデシル基、ラウリル基やトリデシル基、テトラデシル基やステアリル基、オクタデシル基やドデシル基の如き炭素数30以下、就中4~18の直鎖又は分岐のアルキル基を有するアクリル酸やメタクリル酸のエステル、特にアクリル酸エチルやメタクリル酸メチル、アクリル酸ブチルやアクリル酸2-エチルヘキシルの1種又は2種以上を成分とする重合体などがあげられる。

【0021】また前記重合体を形成することのある他のモノマーとしては、例えばアクリル酸やメタクリル酸、カルボキシエチルアクリレートやカルボキシベンチルアクリレート、イタコン酸やマレイン酸、フマル酸やクロトン酸の如きカルボキシル基含有モノマー、あるいは無水マレイン酸や無水イタコン酸の如き酸無水物モノマー、(メタ)アクリル酸2-ヒドロキシエチルや(メタ)アクリル酸2-ヒドロキシプロピル、(メタ)アクリル酸4-ヒドロキシブチルや(メタ)アクリル酸6-ヒドロキシヘキシル、(メタ)アクリル酸8-ヒドロキシオクチルや(メタ)アクリル酸10-ヒドロキシデシル、(メタ)アクリル酸12-ヒドロキシラウリルや(4-ヒドロキシメチルシクロヘキシル)-メチルアクリレートの如きヒドロキシル基含有モノマー、スチレンスルホン酸やアリルスルホン酸、2-(メタ)アクリルアミド-2-メチルプロパンスルホン酸や(メタ)アクリルアミドプロパンスルホン酸、スルホプロピル(メタ)アクリレートや(メタ)アクリロイルオキシナフタレンスルホン酸の如きスルホン酸基含有モノマー、2-ヒドロキシエチルアクリロイルホスフェートの如きリン酸基含有モノマーがあげられる。アクリル酸や(メタ)アクリル酸2-ヒドロキシエチルの使用は特に好ましい。

【0022】さらに、(メタ)アクリルアミドやN,N-ジメチル(メタ)アクリルアミド、N-ブチル(メタ)アクリルアミドやN-メチロール(メタ)アクリルアミド、N-メチロールプロパン(メタ)アクリルアミドの如き(N-置換)アミド系モノマー、(メタ)アクリル酸アミノエチルや(メタ)アクリル酸N,N-ジメチルアミノエチル、(メタ)アクリル酸*tert*-ブチルアミノエチルの如き(メタ)アクリル酸アルキルアミノアルキル系モノマー、(メタ)アクリル酸メトキシエチルや(メタ)アクリル酸エトキシエチルの如き(メタ)アクリル酸アルコキシアルキル系モノマー、N-シクロヘキシルマレイミドやN-イソプロピルマレイミド、N-ラウリルマレイミドやN-フェニルマレイミドの如きマレイミド系モノマー、N-メチルイタコンイミドやN-エ

チルイタコンイミド、N-ブチルイタコンイミドやN-オクチルイタコンイミド、N-2-エチルヘキシルイタコンイミドやN-シクロヘキシルイタコンイミド、N-ラウリルイタコンイミドの如きイタコンイミド系モノマー、N-(メタ)アクリロイルオキシメチレンスクシンイミドやN-(メタ)アクリロイル-6-オキシヘキサメチレンスクシンイミド、N-(メタ)アクリロイル-8-オキシオクタメチレンスクシンイミドの如きスクシンイミド系モノマーも共重合されることのあるモノマーの例としてあげられる。

【0023】また更に酢酸ビニルやプロピオン酸ビニル、N-ビニルピロリドンやメチルビニルピロリドン、ビニルピリジンやビニルピペリドン、ビニルピリミジンやビニルピペラジン、ビニルピラジンやビニルピロール、ビニルイミダゾールやビニルオキサゾール、ビニルモルホリンやN-ビニルカルボン酸アミド類、スチレンや $\alpha$ -メチルスチレン、N-ビニルカプロラクタムの如きビニル系モノマー、(メタ)アクリロニトリルの如きシアノアクリレート系モノマー、(メタ)アクリル酸グリシジルの如きエポキシ基含有アクリル系モノマー、(メタ)アクリル酸ポリエチレングリコールや(メタ)アクリル酸ポリプロピレングリコール、(メタ)アクリル酸メトキシエチレングリコールや(メタ)アクリル酸メトキシポリプロピレングリコールの如きグリコール系アクリルエステルモノマー、(メタ)アクリル酸テトラヒドロフルフリルやフッ素(メタ)アクリレート、シリコーン(メタ)アクリレートや2-メトキシエチルアクリレートの如きアクリル酸エステル系モノマーなども共重合されることのあるモノマー例としてあげられる。前記した共重合用のモノマーは、粘着特性等の改質を目的に必要に応じて用いられるが、その使用量は上記アクリル酸系アルキルエステル100重量部あたり50重量部以下が好ましい。

【0024】加えてアクリル系ポリマーの架橋処理等を目的に多官能モノマーなども必要に応じて共重合用のモノマー成分として用いうる。かかるモノマーの例としては、ヘキサンジオールジ(メタ)アクリレートや(ポリ)エチレングリコールジ(メタ)アクリレート、(ポリ)プロピレングリコールジ(メタ)アクリレートやネオペンチルグリコールジ(メタ)アクリレート、ペンタエリスリトールジ(メタ)アクリレートやトリメチロールプロパントリ(メタ)アクリレート、ペンタエリスリトールトリ(メタ)アクリレートやジペンタエリスリトールヘキサ(メタ)アクリレート、エポキシアクリレートやポリエステルアクリレート、ウレタンアクリレートなどがあげられる。多官能モノマーも1種又は2種以上を用いることができ、その使用量は、粘着特性等の点より全モノマーの30重量%以下が好ましい。

【0025】アクリル系ポリマーの調製は、例えば1種又は2種以上の成分モノマーの混合物に溶液重合方式や

乳化重合方式、塊状重合方式や懸濁重合方式等の適宜な方式を適用して行うことができる。粘着剤の調製に際しては2種以上のアクリル系ポリマーをブレンドすることもでき、粘着付与剤や軟化剤、充填剤等の粘着剤に配合されることのある薬剤を配合することもできる。また粘着剤は、必要に応じて内部架橋方式や外部架橋方式等による適宜な架橋タイプとすることもできる。

【0026】内部架橋したアクリル系ポリマーは、例えば上記した多官能モノマー成分を用いて共重合処理する方式や、紫外線や電子線等の放射線の照射による重合方式などにより調製することができる。一方、外部架橋は、粘着剤に分子間架橋剤を配合する方式などにより行うことができる。その分子間架橋剤としては、例えば多官能イソシアネート系架橋剤やエポキシ系架橋剤、メラミン樹脂系架橋剤や金属塩系架橋剤、金属キレート系架橋剤やアミノ樹脂系架橋剤、過酸化合物系架橋剤などの、アクリル系ポリマー等における架橋関与官能基の種類などに応じて適宜なものを用いることができ、特に限定はない。

【0027】粘着層の形成は、例えばポリプロピレン基材の光線遮蔽層を設けない面にアクリル系粘着剤をリバーコート等による適宜な方式で塗工しそれを加熱処理する方式や、セパレータ上に設けた粘着層をポリプロピレン基材上に移着する方式などの粘着テープ形成方法に準じた適宜な方法で行うことができる。光線遮蔽層の表面にシリコン系や長鎖アクリル系等の適宜な剥離剤からなるコート層を設けた場合には、そのコート層上に粘着層を設けて巻回体とする方式にても目的とする固定テープを得ることができる。この場合には、巻回体を巻戻す際に粘着層がポリプロピレン基材面に移着して目的の固定テープ形態を形成する。

【0028】形成する粘着層は、剥離時の糊残りや床面の変色を防止する耐候性を維持しつつ、床材や床養生シートに対する長期の接着固定性を付与する点より、ゲル分率を30～75%、就中40～73%、特に50～70%としたアクリル系粘着層が好ましい。粘着層の厚さは、接着力等に応じて適宜に決定しうるが一般には100 $\mu$ m以下、就中25～50 $\mu$ m、特に30～40 $\mu$ mとされる。

#### 【0029】

##### 【実施例】

##### 実施例1

フタロシアニンブルー15部（重量部、以下同じ）、塩化ビニル・酢酸ビニル共重合体13部、ポリエステル4部、可塑剤5部及びワックス系添加剤2部をトルエン／酢酸エチル／メチルエチルケトンの混合溶媒61部に溶解させた溶液をグラビアコートにて厚さ70 $\mu$ mの一軸延伸ポリプロピレンフィルムの片面に塗工して厚さ2 $\mu$ mの光線遮蔽層を形成し、アクリル酸2-エチルヘキシル98部とアクリル酸2部の共重合体からなるアクリル

系ポリマーにポリイソシアネート系架橋剤3部を加えたアクリル系粘着剤の溶液を、リバーコートにて前記ポリプロピレンフィルムの他面に塗工して厚さ35 $\mu$ mのアクリル系粘着層を付設して、固定テープを得た（テープ幅の方向とポリプロピレンフィルムの一軸延伸方向が一致）。

##### 【0030】実施例2

フタロシアニンブルーに代えてフタロシアニングリーンを用いたほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0031】実施例3

光線遮蔽層の厚さを4 $\mu$ mとしたほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0032】比較例1

一軸延伸ポリプロピレンフィルムに代えて厚さ60 $\mu$ mのポリエチレンフィルムを用いたほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0033】比較例2

一軸延伸ポリプロピレンフィルムに代えて厚さ70 $\mu$ mの和紙を用いたほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0034】比較例3

アクリル系粘着層に代えて、天然ゴム70部とSBR30部とテルペン系粘着付与剤20部からなるゴム系粘着層としたほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0035】比較例4

ゴム系粘着層を光線遮蔽層の上に設けて光線遮蔽層介在構造としたほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0036】比較例5

光線遮蔽層を設けないほかは実施例1に準じて固定テープを得た。

##### 【0037】評価試験

実施例、比較例で得た固定テープ等について下記の特性を調べた。

##### 紫外線透過率

粘着層を有しない状態の基材（光線遮蔽層付）について波長300～400nmの紫外線の透過率を分光光度計（島津製作所製、MPS-2000）にて積分球を用いて測定した。

##### 【0038】ゲル分率

固定テープより粘着層を採取して重量（W1）を測定後、それを酢酸エチル中に1週間浸漬して（室温）、その不溶解分を分取乾燥させて重量（W2）を測定し、式：（W2）／（W1）×100よりゲル分率を求めた。

##### 【0039】作業性

固定シートを介して床養生シートの周縁部を床面に接着する際の固定シートの伸び、及びその固定シートを剥がす際の切断の有無を実作業にて調べ、下記の基準で評価した。

優秀：接着時の伸び及び剥離時の切断がなく剥離作業を

連続して円滑に行えた場合

不可：接着時に伸びるか、剥離時に切断した場合

不適：接着時に伸び、かつ剥離時に切断した場合

#### 【0040】耐候性

固定テープをフローリング材に接着して、室内の日光が  
あたる窓際に3ヵ月放置した後、固定テープを剥がして  
フローリング材の表面を目視観察し、糊残りと変色の有  
無を調べ、下記の基準で評価した。

優秀：糊残り及び変色がなくフローリング材に変化がない場合

不可：糊残り又は変色があるが、付着糊を容易に除去できる場合

不適：糊残りと変色があり、フローリング材全面が汚染されている場合

【0041】前記の結果を次表に示した。

	透過率 (%)	ゲル分率 (%)	作業性	耐候性
実施例1	35	60	優秀	優秀
実施例2	50	60	優秀	優秀
実施例3	10	60	優秀	優秀
比較例1	35	60	不可	優秀
比較例2	40	60	不可	優秀
比較例3	35	25	優秀	不適
比較例4	35	25	優秀	不適
比較例5	80	60	優秀	不適

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】実施例の断面図

【符号の説明】

1：光線遮蔽層（11：剥離コート層）

2：ポリプロピレン基材

3：アクリル系粘着層

【図1】

